



つみかさね

冬が過ぎ、陽光に桜の開花を眺める季節となりました。次は花吹雪、そして新緑と続きます。それは毎年繰り返される当たり前のことではないか、と仰るかもしれません。しかし、日を積んで月に至り、月を数えて年を越えるこの当たり前が、とても大切なのです。驚天動地の異変は一般にあまり歓迎すべきことではなく、また頻繁に奇跡が起こるわけでもありません。当たり前の日常をいかに充実させるかが、問われるところです。

みなさんは、未来に対してお一人お一人の夢や目標を持っていらっしゃるでしょう。では、それぞれの夢なり目標なりは、どうすれば実現するのでしょうか。棚から牡丹餅を期待してもなかなか落ちてきませんし、優れた能力がある日突然身につくはずもないでしょう。日々の平凡な積み重ねの上のみ、飛躍はあるのです。普段の鍛錬なく基礎体力を欠いた状態で大技に挑戦—— 何かに挑戦する心意気は誠に結構ながら—— すれば、失敗は必定となります。それは危険な博打というものです。いかなる名人上手であっても、単調と思えるような日頃の基礎作りの土壌から大輪の花を咲かせているのです。

みなさんは、これまで日々の授業や調査、実習そして論文に取り組んでこられました。概ね時の過ぎるのを忘れるほど熱心に学ばれたでしょうし、稀には—— 稀であったことを期待します—— 不承不承取り組まれたこともあるでしょうが、とにかくその積み重ねの結果、今日の門出を迎えることが出来たわけです。本学は、それぞれの専門に即した研究と教育とを通してみなさんを鍛え上げてきました。当たり前のことをしっかりとこなし、目の前の作業に倦むことなく向き合った一見平凡な日々の積み重ねが、現在を作り上げています。それは、みなさんの輝かしい将来を築き上げる礎石であり、明日の扉を開く力となるものです。一日手抜きすれば、他人は知らずとも自分で分かります。一週間なすべきことをしなければ周囲にも気付かれます。もし何ヶ月も怠けていれば、おそらく取り返しのつかない事態に陥るでしょう。学窓を出られてからも、自信をもって日々の課題に向き合われることを切望します。真摯にそして手抜きなく取り組む当たり前の積み重ねが、どなたにも非凡な成果をもたらしてくれるはずです。

光あふれる丘の上のキャンパスでは、爛漫の桜が「千とせまで 折りて見るべき 桜花 こずゑはるかに咲きそめにけり」とばかりに、豊かな未来を予祝しています。巣立たれてからも時には学園や一緒に学んだ仲間を思い出してください。分からないことがあれば、質問に来てください。図書館や研究室は、きっとあなたの力になってくれます。そしてどんな機会であれ、キャンパスを訪れてみてください。ここはあなたの母校です。いつでも歓迎いたします。

卒業生のみなさん、そして共に歩んでこられたご家族の方々、本当におめでとうございませう。心からお祝い申し上げます。

令和8年3月14日
鶴見大学・鶴見大学短期大学部
学長 高田 信 敬

